

吹田市立図書館の基本方針と目標

平成 31 年 (2019 年)4 月 30 日

1. 基本方針

吹田市立図書館は、「ユネスコ公共図書館宣言」などに謳われた公立図書館の理念に基づき、引き続き図書館利用不便地域の解消に努めながら、必要な資料を「いつでもどこでもだれにでも提供する」、市民本位の図書館サービスを行うとともに、我々の使命である《資料・情報の提供と保存を通じて、市民の社会的活動や子供の成長を支援するとともに、生活に潤いを与え、よって吹田のまちづくりと地方自治発展に役立つ》図書館事業の展開を図ります。〔吹田市立図書館基本構想による〕

2. 運営方針(五つのお約束)

- (1) さがしものは何ですか。
吹田市立図書館は、あなたが欲しい資料を必ず見つけます。
- (2) 知りたいことは何ですか。
吹田市立図書館は、あなたの疑問に必ず答えます。
- (3) 困っていることは何ですか。
吹田市立図書館は、あなたの生活をサポートする情報を必ず提供します。
- (4) やりたいことは何ですか。
吹田市立図書館は、あなたのヤル気を必ず応援します。
- (5) 地域資料の収集と活用に努め、必ずまちづくりに貢献します。

〔市内全体の状況〕

面積: 36.09 km²

市内には 4 つの家庭文庫や地域文庫があります。

図書館統計は平成 30 年度末(自動車文庫を含む)

| 項目 | 数値 | |
|-----------------------|-----------|---|
| 人口 | 371,030 | 人 |
| うち 0 歳~14 歳 | 52,460 | 人 |
| 登録者数 | 112,253 | 人 |
| 市内の実利用者数 | 65,127 | 人 |
| 延利用者人数 | 921,866 | 人 |
| 来館者数 | 1,868,375 | 人 |
| 個人貸出点数 (含む AV 全館分) | 3,542,107 | 点 |
| 年間購入冊数 | 36,892 | 冊 |
| 蔵書数 | 1,069,503 | 冊 |

※人口は平成 31 年 3 月末現在、外国人登録者を含みます。登録者は広域利用者在勤在学者を含みます。実利用者は市民のみで、団体貸出等は含みません。

※平成 25 年 4 月「吹田市立図書館基本構想」の制定にともない、中央図書館及び 6 つの地域図書館並びに 2 つの分室でサービスしています。

※貸出点数は団体貸出を除きます。

※年間購入冊数は新館建設にともなう経費がないので、通常購入冊数です。

3. アクションプランに沿った主な事業計画と目標

平成 25 年(2013 年)4 月 1 日策定の吹田市立図書館基本構想に示された、各種の事業の進捗状況を点検しながら、その実現を図っていきます。目標数値の見直しに取り組みます。全館に共通する課題を以下にまとめます。

基本目標 1

地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

○中央図書館の再整備

現在の中央図書館は建設されて 47 年が経過し、閲覧室が狭く視聴覚資料の配備や電子情報機器類の配置も不十分な状況でバリアフリーにも対応できていません。平成 26 年(2014 年)に図書館協議会へ諮問を行い、平成 27 年(2015 年)11 月に「中央図書館の再整備のあり方について(答申)」が出ました。平成 29 年度(2017 年度)に耐震診断が実施され、今後 2 年にわたって耐震化及び改修工事が実施されます。20 年間現在の建物を利用しながら再整備の準備をすることになりました。

○図書館利用不便地域の解消

地域の人が歩いて通える場所に施設整備を行うことを目標に、長年の課題であった岸部地域への図書館整備の取組は、北大阪健康医療都市(愛称:健都)の中のパーク施設として計画が進められています。「健都ライブラリー」設置の条例も制定され令和 2 年(2020 年)11 月の開館を目指し、指定管理業者の選定と工事に取り組みます。北千里分室については、地元住民の意向に沿った再整備となるよう設計委託業者と共に検討を続けます。

○図書館の広域連携(相互利用)

市民の学習機会の充実と資料の有効活用を目的として、隣接する市の図書館を市民が相互に利用できるよう連携を進めています。平成 29 年(2017 年)7 月より北摂地区全域で公立図書館の広域利用サービスを開始しました。大阪市については平成 31 年(2019 年)から、さんくす図書館に引き続き江坂図書館も相互利用に参加し拡充の方向で進めています。

○個人貸出点数の目標値

平成 30 年度(2018 年度)の視聴覚資料を含めた総貸出点数の、市民一人当たりの貸出数は約 9.55 点です。利用しやすい便利な図書館を目指し、IC タグによる図書館システムを導入しました。IC タグによる貸出・返却、予約棚など機器にも一定慣れていただき、定着してきました。今後は、様々な市民の興味を喚起するような事業を展開して、新規利用者の開拓を目指すとともに、リピーターを増やすために、資料費の確保に努めて、新鮮で魅力ある蔵書を目指します。また、資料の有効活用を目的として、AV 資料を所蔵していない図書館に CD を交換巡回させる「CD キャラバン」や、所蔵館が限られているマンガについても、同様の取り組みを実施します。

新図書館システムの導入により入館ゲートを設置したことで、各図書館の来館者数がわかるようになりました。186 万人を超える実に多くの方にご来館いただき、図書館内で時間を過ごしておられることが確認できました。貸出数のみでは認識できなかった来館者の皆様のニーズについても意識し、社会教育施設の任務を果たしていきたいと考えます。

○レファレンス^(※29)技術の向上

平成 27 年(2015 年)度に国立国会図書館からお礼状をいただいて以来、国立国会図書館レファレンス協同データベース^(※6)事業へデータ提供を続け、平成 30 年度末で計 367 件(平成 30 年度は 56 件)の一般公開登録をしています。図書館ホームページからも、これらの登録事例が直接検索できるようになっています。また、平成 30 年(2018 年)5 月から、レファレンス事例を紹介したリーフレット『図書館で調べもの』を発行し、レファレンス業務を市民にPRしています。

○地域資料の収集と整理

中央図書館の休館中も引き続き市の関係部局との情報の共有化に努め、更に連携利用がしやすい環境を整え地域資料の充実を図ります。吹田市ゆかりの人の著作物、地域を主題とした資料、市内で制作・発行された資料及び吹田市が刊行する行政資料など、吹田市立図書館が責任を持って収集・提供していく必要のある地域資料を網羅的に保存します。写真、パンフレットなどの資料も積極的に収集・整理し、所蔵状況をデータ化して提供し、データベースとして充実を図ります。博物館、男女共同参画センター、平和祈念資料館、行政資料室、市民総務室情報公開担当等、市の関連部局と連携し、情報の共有化を図ります。

○大学図書館や類縁機関との連携

次世代の図書館員の育成のため、市内大学のインターンシップや図書館実習生を積極的に受け入れます。また、より専門的なレファレンスや資料提供のために、専門図書館、博物館など類縁機関への紹介をしています。元人形芝居「出口座」と関西大学との橋渡しをしました。今後も人形活用の支援と郷土の文化の継承のため連携を続けます。大和大学とは障がいを持つ方たちの図書館利用の支援のための、共同研究「公共図書館における知的障がい者のための合理的配慮のあり方に関する研究」に参加し発表を行いました。その成果を活かし館内表示の改善や啓発ポスターの掲示、障がい者の皆様が利用しやすい施設整備に取り組みます。

○行政との連携

「政策立案支援サービス」として、平成 26 年(2014 年)4 月から開始した市役所職員への新着図書案内サービスや業務上の調べもの相談は、徐々に浸透し、相談内容も多岐にわたるものになってきました。市民への市政情報提供の場としての図書館認知度も増しており、事業の取組みへの協力依頼を受けることが定着してきています。

基本目標 2

生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

○吹田市各部局との連携の推進

公民館や博物館、まなびの支援課、環境政策室などとの連携事業が進んでおり、生涯学習の推進を図るとともに図書館利用の促進を図ります。

○ボランティア人材の育成と市民との協働の拡充

障がい者サービスボランティアや児童サービスボランティアを養成するとともに、現在活躍中のボランティアの方々との対話を重視します。図書館の様々な活動を支援していただくボランティア「図書館フレンズ」(※19)の募集は、今まで3月のみとしていましたが通年募集とし、市民との協働を一層進めます。

○障がい者サービスの充実

ボランティア育成に積極的に取り組み、デイジー図書(※16)等の音訳図書・点訳図書の製作点数を増やすとともに、全国的なデータベース「サピエ」(※10)の活用により読書環境を充実させます。

2つの分室を除く全図書館で実施している対面朗読サービスに加え、音訳図書の再生機器の貸出や来館困難者への図書の郵送貸出にも取り組み、より一層の利用促進を図ります。「LL版図書館利用案内」(※3)を活用して読書活動の支援を進めていきます。

○図書館PRの充実と利用促進

成人向けのサービスでは、「図書館講座じゅずつなぎ」(※18)をはじめとして、図書館や地域の方々にスポットが当たるような、文化行事に取り組んでいきます。地域館では施設の催しに協力し、展示スペースを開放して市民の発表の場とし図書館を自己実現の場として利用していただくような取組みを今年度も続けます。

○利用者アンケートの実施

隔年で取り組んできた利用者アンケートを平成30年度(2018年度)はWebアンケートの形で実施しました。今後もいろいろな形で利用する市民の皆様のニーズの把握に努めます。

○ビジネス支援サービス

起業する人を支援する「起業コーナー」を地域経済振興室と協力して千里図書館に設置しました。「吹田市立図書館ビジネス支援だより」を定期的に継続して発行し、起業やビジネス全般に関する資料やサービスの紹介などの情報発信に努めます。また、江坂図書館においても、ビジネス支援コーナーの充実を図ります。

これまで書籍として所蔵していた法規集を、法律データベースの形で導入したことにより全館で利用できるようになり、より効率的に法律情報を提供できるようになりました。

○健康・医療情報サービス

保健・医療機関との連携を進め、講座や講演会の開催や情報の収集・提供を行います。健都ライブラリーの整備に向け資料収集基準を作成しました。効果的な資料収集と資料の有効利用を目指します。

基本目標 3

子育てや学校の支援を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

○「子ども読書活動推進計画(改訂)」の取組みについて

平成 25 年(2013 年)3 月に策定された計画の改訂版に基づき、具体的な事業を積極的に展開していきます。全市的に未来を担う子供の読書環境整備を進めるための「吹田市子ども読書活動支援センター」^(※11)の設置を目指して、関係機関の活動状況をまとめます。

○学校との連携並びに読書環境の整備

小中学校との連携会議を通じて、学校現場のニーズの把握に努めるとともに、図書館協議会から提言された「学校連携を進めるアイデア集」を活かして、読書活動支援者へのサービスを行ってより良い学校連携を進めます。また、幼稚園や保育園と連携し、図書館見学や団体貸出、並びに出前講座を実施するなど子供の読書環境整備に取り組みます。保育園が地域の親子を対象に育児交流や親子遊びに取り組んでいる「赤ちゃん会」と連携して、読み聞かせや絵本の選び方講座などの出前講座を実施していきます。幼稚園に設置された「まちかど子育て絵本館」にも働きかけを行います。

○子供を呼び込む行事や取組みの実施と講座の充実

子供が図書館に足を運ぶきっかけとなり本を読む楽しみを知ってもらうために、第 36 回「子どもと本のまつり」^(※7)を開催します。「おはなし会」など様々な行事を定期的実施し乳幼児期の読書への誘いや、親子で楽しんでいただける行事などに全館で取り組んでいき、子供の読書環境の向上に寄与します。

また、夏休みに読書を楽しんでもらうためにお勧めの本を紹介する「夏休み文庫」や図書館員が夏休みの宿題について相談を受ける「宿題タスケルンジャー」のほか、平成 26 年度(2014 年度)から開始した「どくしょちょきん(すいぼんつうちょう)」^(※17)の取組みも継続していきます。

1 歳の幼児とその保護者向け「抱っこで絵本講座」^(※13)を、全館で開催します。また、図書館から出かけて行っている読み聞かせの講座などの出前講座を積極的に実施します。

成人向け「子どもと本の講座」として、絵本や読み物についての知識を深めるとともに解説などを行う児童文学講座を開催します。

○ブックスタート事業

図書館全体で、平成 30 年度(2018 年度)の配付率は、80.04%となりました。平成 29 年度から開始した出張カウンターとして離乳食講習会(かみかみコース)での絵本配付と保健センターの家庭訪問の協力や、福祉部の協力を得て「子ども見守り家庭訪問事業」でのチラシ配布等で配付率の向上を目指します。

家庭での読書環境の向上を目指し、①「ブックスタートのひろば」^(※23)、②「親子で絵本とわらべうた」^(※4)(9 か月～1 歳の幼児の回と 2 歳～3 歳の回)、③「おひざで絵本」(ブックスタートのひろばを卒業した 2～3 歳の幼児向けおはなし会)と、年齢に応じたきめ細かいサービスを展開しています。

○支援が必要な子供へのサービス

点字図書・ユニバーサル絵本・マルチメディアデイジーなど支援が必要な児童生徒に役立つ資料について利用案内等を作成し、学校の支援学級等にPRしていきます。これらの様々な活動を支える人材を育成するため、ボランティアの養成講座やスキルアップ講座を開催します。

4. 吹田市立図書館各館の運営について

4-1) 中央図書館

〔地域の特色を生かした運営方針〕

片山・岸部地域は、古くは後期難波宮や平安京の瓦の生産地でもあり、明治以降はビールと操車場の町を代表する、吹田の中心地として歴史を刻んできました。操車場の跡地には、北大阪健康医療都市が整備され、市内 10 番目の図書館「健都ライブラリー」の開館準備を進めています。住民の平均居住年数が長く、ふるさと意識を持つ市民の割合と、高齢単身世帯の比率の高い地域です。大阪高槻京都線(産業道路)沿いの商店街を挟むように、丘陵地帯や旧市内に多くの住戸が密集しています。片山公園を中心にして新築マンションが建設されるとともに、平成 26 年度(2014 年度)には大学が新設され、子育て世代や学生層の利用が増えています。

〔中央図書館のキャッチフレーズ〕

25 万冊の資料は吹田市民の宝。古い地図や絶版本など、貴重な資料が一杯です。

市立図書館の中心館として、皆さんの知的活動を支えます。

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 歳入確保策としてレシート、バナー広告の募集を行いました。
- ・ 学校支援では「ごりまる学校訪問」^(※8)や「ごりまる便」^(※9)を実施した他、学校の新年度に合わせて図書館見学の案内を出すなど利用しやすいように取り組みました。
- ・ Facebook(フェイスブック)Twitter(ツイッター)等のSNS(インターネット上のネットワーキングサービス)^(※12)を活用するほか、ホームページをより使いやすくして情報発信を行いました。
- ・ 図書館不便地域である岸部地域において「健都ライブラリー」の計画が進み、平成 30 年度(2018 年度)には実施設計が完了し、令和 2 年(2020 年)11 月の開館を目指しています。

〔平成 31 年度事業計画と目標〕

平成 31 年度は改修工事のため休館となりますが、吹田市立図書館の中心館としての業務は引き続き実施してまいります。吹田市立図書館の中心的役割を担う総合的な活動として、児童向け行事に携わるボランティア育成、図書館コンピューターシステムをはじめ各種サービスの企画調整を行います。また、リニューアル開館に向けてサービスの見直しに取り組みます。

- ・ 歳入確保と地域経済活性化への取組みとして、引き続きレシート広告やホームページバナー広告主の募集を行ってまいります。
- ・ 学校連携事業については、学校に配置される読書活動支援者へのサポートに引き続き取り組めます。
- ・ 「Facebook(フェイスブック)」「Twitter(ツイッター)」等の積極活用による情報発信だけでなく、地域資料のデジタルデータ化に取り組めます。

○貸出点数の目標(自動車文庫を含む)

図書・雑誌の貸出 … 408,000 冊

視聴覚資料の貸出 … 7,000 点

〔中央館的機能〕

○学校や幼稚園・保育園との連携

学校や幼稚園・保育園への、出前講座の講師派遣のコーディネートを行います。学研図書館部会への参加や学校の読書活動支援者訪問を通じて学校現場のニーズの把握に努め、調べ学習の支援をはじめとするより良い学校連携のありかたの検討を進めます。

資料の有効利用と、学校連携の一環として始めた、「もうよんだかな」セット(読書用のおすすめ本 40 冊)^(※25)の活用をさらに進め、全小学校に届けることを目標に、未利用の学校に積極的に案内します。平成 25 年度(2013 年度)から実施している自動車文庫(ゆめぶんこ)の車両を活用した団体貸出の「ごりまる便」、図書館体験をしてもらう「ごりまる学校訪問」も実施します。また、『子ども読書活動支援センター』へと発展させられるよう、図書館ホームページの「学校連携のページ」の活用を図ります。

中学校の職業体験については、できる限り多くの生徒を受け入れられるように全校一斉に申込みを受け付けて調整しています。

○児童サービス

障がい児サービスについては、これまでこども支援交流センターやわかたけ園へ出向いての読み聞かせを実施してきました。今年度も自動車文庫を活用し、団体貸出の実施やさわる絵本や点字資料、LLブックなどを障がい児にも利用してもらえようPR方法を工夫すると共に新たなサービスについて研究を進めてまいります。

中央図書館の休館中も、需要の多い定例行事である「ブックスタートのひろば」と「おひぎで絵本」について、総合福祉会館に場所を変更して実施します。

○YA サービス(※27)

施設の休館に伴い、毎年実施している YA サポーターの募集や「ビブリオバトル」(※22)等の取組みは実施できませんが、ホームページに新設したYA向けコーナーには、世代の興味関心にあった情報を掲載していけるよう内容の充実に取り組みます。また、新たな取組みとして、YA 向けに「Twitter(ツイッター)」等のSNSを使った情報発信を開始し、より図書館に興味を持ってもらい、中高生世代の利用につなげていきます。

○行政支援「政策立案支援サービス」

市職員を対象とした情報発信を毎月行っています。今後も、連携を図ることにより地域の課題解決に貢献し、市民サービスの向上につながる支援を行っていきます。

〔自動車文庫「ゆめぶんこ」〕

- ・ 一般市民向けの駐車場については、図書館利用の不便な地域や図書館未整備の岸部地域を中心に毎月 1 回 27 か所へ巡回しています。
- ・ 学校連携としては、「ごりまる便」「ごりまる学校訪問」「もうよんだかなセット」についてはホームページから申し込みが可能となり、月 2 回の巡回を行います。より一層の PR に努め、利用実績の少ない中学校への利用拡大を図ります。
- ・ 地域・家庭文庫(※14)の活動に対し、引き続きサポートを行います。図書館ホームページに設けた地域・家庭文庫紹介のページを通じて利用者への PR につなげていきます。地域・家庭文庫交流会を実施して一層の連携を深めていきます。
- ・ 福祉施設などへの巡回サービスについては、各施設の状況に合わせた図書の配本や、巡回時間の設定を工夫し、より利用しやすい運行に努めます。
- ・ 留守家庭児童育成室への巡回サービスは、市内 36 学級のうち 35 学級に巡回します。1コースを 4 校ずつとして全 9 コースで巡回することで、より利用しやすい運行を目指しています。また、育成室訪問(読み聞かせ・パネルシアター・ストーリーテリングなどを実施)についても継続して行います。

4-2)千里図書館

〔千里ニュータウン地区の特性を活かした運営〕

千里ニュータウン地区にある図書館として、北千里分室と共に乳幼児から高齢者まで暮らしに役立つ図書館サービスを目指します。また、学校など近隣の施設と連携して地域コミュニティの活性化に貢献できる図書館サービスの展開を目指します。千里図書館では、特に健康や医療に関する資料の収集や情報の提供、講座の開催に取り組みます。多文化サービスについては、日本人の多文化理解を深めたり、在住外国人を支援したりする取り組みをさらに進めてまいります。北千里分室では地域に密着したサービスを目指します。

〔千里図書館のキャッチフレーズ〕

図書館はあなたの居場所です。図書館デビューしませんか。

千里図書館は、あなたの生きがいを応援します

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 地域経済振興室と連携し、平成 29 年(2017 年)10 月に設置した「起業コーナー」は年度途中に追加発注をし、資料を充実させました。「ビジネス支援だより」を 3 回発行しました。
- ・ 千里ニュータウンを撮影した寄贈写真資料は、展示会等で存在を広く知られ、テレビ番組で一部を使用されました。今後の課題は、地域資料として図書館のホームページでも公開していくことです。
- ・ 多文化サービスでは、「英語でえほんを楽しもう！」を関西大学の学生の協力を得て開催し、児童が英語に親しむ機会を設けました。
- ・ 健康・医療情報サービスでは、大阪府済生会千里病院と連携して講演会「たばこと肺がん」「知って安心！乳がんの検診と治療」を開催しました。
- ・ 北千里分室では、地域の文庫と連携した絵本講座を開催しました。また、北千里地区公民館と共催で地域防災講座を開催し好評でした。公民館の講座と連動した本や CD の特設にも取り組みました。
- ・ 今後、学校との連携や医療機関など千里ニュータウン内の施設訪問をはじめとする地域との連携に取り組み一層のサービス充実を図ります。

〔平成 31 年度事業計画と目標〕

- ・ 千里ニュータウンは JR 以南地域と並び約 3 割が高齢者という地域です。高齢者の来館者は年々増加しており、余暇を過ごす居場所、生涯学習の拠点としての、サービス展開を目指します。
- ・ 平和祈念資料館や吹田市国際交流協会など千里ニュータウンプラザ内の各施設との連携をすすめます。
- ・ 近隣でマンション建設が進んでおり、引き続きポスターの掲示やチラシの配布をして新規利用者の開拓に努めます。

○ 貸出点数の目標

図書・雑誌の貸出 … 767,800 冊

視聴覚資料の貸出 … 89,000 点

〔特徴的なサービス〕

○ シニア世代向けサービス

リタイア後の生涯学習を支援できるような取り組みをすすめます。「みんなで音読」「朗読四つの扉へようこそ」を継続し、本を介した利用者同士の交流の機会を設けます。

○起業コーナー

「起業コーナー」の資料を充実させ、地域経済振興室や「ビジネスコーナー」を設置する江坂図書館と連携して情報発信を続けていきます。

○多文化サービス

関西大学の学生などの協力を得て、絵本の読み聞かせの時間を続けます。吹田市国際交流協会と連携し、在住外国人との交流の場を設けていきます。

○健康・医療情報サービス

現在整備中の健都ライブラリーと協力し、健康を維持するために役立つ資料の充実を図ります。病気や病院を調べるときの道しるべとなる図書館作成のパスファインダーや他機関の健康に関するパンフレットを設置するなどより活用されるコーナーにします。また、保健センターやまなびの支援課、医療機関との連携による講座や講演会を引き続き開催していきます。

○多目的室の利用促進

児童向けのおはなし会や各種行事に使用するほか、成人向けの講座や講演会、展示等の利用を通じて地域の人々の交流拠点として利用されるよう、積極的な活用を図ります。平成 28 年度(2016 年度)から毎月開催を始めた「親子わくわく読書ひろば」(※5)を引き続き開催し、親子が安心して読書できる場と時間を提供します。

〔北千里分室の取り組み〕

近年は集合住宅の建替えが進み、従来の高齢者の利用とともに若い世代の利用が増えています。このような幅広い世代の市民のニーズに応えられるよう、千里図書館のバックアップを得て資料を提供していきます。

- ・ 乳幼児とその保護者を対象にした「抱っこで絵本講座」や「ブックスタートのひろば」「おひぎでえほん」などの行事の実施を通じて子育て支援に努めます。
- ・ 地域の文庫と連携して、読み聞かせに関する講座を開催します。
- ・ 公民館の行事と連動した特設コーナーの設置や、公民館主催の文化祭への参加や共催講座開催などを通じて公民館との連携を深めます。

4-3)さんくす図書館

〔JR以南地域の特性を生かした運営〕

吹田市の中でも歴史ある地域であり、多くの神社仏閣や重要文化財に指定された「旧西尾家住宅」や古民家を再生した「吹田歴史文化まちづくりセンター(浜屋敷)」などがあり、これら地域ならではの情報も収集提供していきます。JR吹田駅・バスターミナル前という恵まれた立地条件を活かし、様々な施設と連携し地域のまちづくりに役立つ図書館を目指します。

地域の図書館として、2 万点以上ある視聴覚資料をはじめ、暮らしに密接した資料の提供を積極的に行い、乳幼児から高齢者までニーズに応じたサービスの充実に努めます。

〔さんくす図書館のキャッチフレーズ〕

JR吹田駅から徒歩1分！ 近くて便利な図書館です。

子育てからまちづくりまで

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 「昔の子どもの本懐かしむ」と題して、昔の児童書(復刻版)の展示を行いました。併せて、関連する資料の展示も行いました。
- ・ 図書館講座じゅずつなぎ「吹田の地名あれこれ パート2」を開催し、地域の方々の多くの参加がありました。
- ・ 高齢者向けのサービスに取組みました。高齢福祉室と連携して「認知症」のパスファインダーを作成し、館内及び地域包括センターで配布しました。図書館ホームページにもアップしました。今後も、市内で最も高齢化率の高い地域のため、さらに取組みを進めていく必要があります。
- ・ 「リサイクル本フェア」を開催し、大変好評でした。
- ・ 児童サービスでは、子どもと本のまつりで、子ども向け講演会「手で話そう-手話ってなあに-」を開催、また博物館と連携し、「いとむかしをくらべてみよう」夏休み親子自由研究講座を開催し、好評でした。
- ・ 今年度も近隣の 8 か所の幼稚園・保育園を訪問し、読み聞かせや大型紙芝居を行いました。
- ・ 近隣の 3 か所の児童センターへ講師派遣を行いました。
- ・ 学校連携では、読書活動支援者交流会を行い、図書館と読書支援者、また読書支援者同士の情報交換を行いました。また、専任の読書活動支援者が配属されている学校図書室7校へ訪問し、見学・交流を行いました。
- ・ ブックスタート事業の絵本の配付率を上げるため、地域 6 か所の「赤ちゃん会」へ参加し、まだ手渡せていない親子へ絵本を渡すことができました。
- ・ 就労支援サービスでは、資料の更新・充実を行いました。
- ・ 大阪市との広域利用(試行)は、吹田市民、大阪市民とも利用は順調です。

〔平成 31 年度事業計画と目標〕

- ・ 図書館利用の促進のために、市民の読書意欲を喚起するようなテーマで特設展示を実施します。図書館の行事・イベントに合わせた展示も行っていきます。
- ・ 吹田歴史文化まちづくりセンター(浜屋敷)、旧西尾家住宅、旧中西家住宅に関するパンフレットを設置し、吹田ゆかりの方の展示などを行い、地域の魅力発信に努めます。
- ・ 成人向け行事では、恒例の「図書館講座じゅずつなぎ」のほか、まなびの支援課と連携した「運動講座」や、高齢福祉室などと連携した高齢者向けの講座やパスファインダーやブックリスト作成に取り組みます。
- ・ 中央図書館休館に伴い、中央図書館所蔵のマンガ資料を一部移管し、市民に提供します。

○貸出冊数の目標

図書・雑誌の貸出… 352,000 冊
AV 資料の貸出… 56,000 点

〔特徴的なサービス〕

○YAサービス

YAサービスでは、参加型コーナーとして実施しています。中高生世代からおすすめ本を募集する手書きの「投稿掲示板」は、継続的な投稿があり、今後も引き続き実施していきます。

○成人サービス

シニア世代に向けてのサービスに重点を置いて取組みます。特設コーナー等で資料の展示を行い、講座やイベントを企画します。また昨年度作成した「認知症」のパスファインダーに続き、今年度も新たなパスファインダーやブックリスト作成に取り組みます。

○就労・就業支援コーナー

「JOBナビすいた・JOBカフェすいた」と連携して設置した「ハロー！ジョブ・コーナー」は、求人情報などのチラシやパンフレットの収集とともに、資格試験の参考書など、図書館ではあまり収集してこなかった資料を集めて好評です。資料の充実を図り、パスファインダー「就職・資格」を活用し、情報の提供に努めます。

○鉄道コーナー

「鉄道のまち吹田」の郷愁を誘う歴史的記録や資料の収集・保存に努めていきます。

4-4) 江坂図書館

〔江坂地域の特性を生かした運営〕

ビジネス街に隣接しながら、幼児と家族連れでの利用が多い職住混在地域にある図書館として、文化的講演会やビジネス支援に力を入れて、利用者と地域の特性に沿った、資料や情報の提供に努めます。近隣の学校や幼稚園などとの連携をより一層図ります。子育てならびに暮らしや仕事に役立つ情報発信を実施します。

〔江坂図書館のキャッチフレーズ〕

暮らし・ビジネス・文化、緑のまちの江坂図書館
企画書の書き方から里芋のむきかたまで・・・お役に立ちます

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 平成 30 年度の「江坂ロビーフェスタ」(※1)は、通年で 10 回開催し、観覧者はほぼ毎回 100 人を超え、行事として定着しています。今後も、「江坂花とみどりの情報センター」と連携し、あらゆる世代の市民に図書館をアピールしていきます。
- ・ 児童サービスにおいては、定例行事に加えて「保育士の育児相談」「抱っこで絵本講座」など多くの行事を実施しました。

- ・ ビジネスコーナーを見やすく充実させ、ビジネス関連のチラシもビジネスコーナー横に設置しました。またビジネス講座を夜間開館時に実施し、好評を得ました。ビジネス講座については今後も継続して実施していく予定です。
- ・ 朗読講座(3回連続講座)を開催しました。3回では伝えきれないという講師や参加者の意見もあり、次からは隔年で5回連続講座の開催に向けて検討します。
- ・ 子育て応援情報コーナーを設置し、子育て世代に向けての資料や近隣子育て施設のチラシなどを設置しました。また、畳を設置し以前から御要望のあった靴を脱いで上がれるスペースを実現でき、多くの親子連れに御利用いただいております。
- ・ 多目的トイレに温水洗浄機能付き便座を設置しました。
- ・ 平成31年1月から大阪市との広域利用を開始し、大阪市民の方に江坂図書館を御利用いただけるようになりました。

〔平成31年度事業計画と目標〕

- ・ 商業地、オフィス街、マンション街という3つの異なった性格を持つ地域の中心にある公園内の図書館として、その立地を生かしたビジネス支援、子育て支援を柱としたサービスを展開します。
- ・ 拡充したビジネスコーナーに、地域経済振興室と連携してビジネス関連のちらしを設置し、ビジネス情報発信につとめます。
- ・ ビジネス講座を開催します。
- ・ 子育て応援情報コーナーの更なる充実につとめます。
- ・ 職員による「えほんのじかん」を月2回から4回に増やし、毎週日曜日に実施します。またその後、集会室で引き続き親子でゆっくり本を読んでもいただけるスペースとして開放できるよう検討を進めていきます。
- ・ YA世代の学習支援のために、資料を充実します。
- ・ 「江坂ロビーフェスタ」のさらなる充実と継続を図り、「江坂花とみどりの情報センター」と協議を重ね、より市民に喜ばれる内容を目指します。
- ・ レファレンスカウンターに利用者呼び込み、レファレンス通信を活用しながらレファレンス業務の認知度を高めます。

○貸出点数の目標

| | | |
|----------|---|-----------|
| 図書・雑誌の貸出 | … | 398,800 冊 |
| 視聴覚資料の貸出 | … | 50,000 点 |

〔特徴的なサービス〕

○ビジネス支援

ビジネス街に隣接する図書館として、ビジネス関連の調査に必須の「帝国データバンク会社年鑑」「東商信用録」「業種別審査事典」等を備えています。また有料データベース^(※28)「日経テレコン21」の閲覧が可能です。

○子育て支援

ブックスタートのひろばの参加人数や絵本の配付数が多いことから子育て支援の必要

性が高い地域といえます。「保健師の育児相談」などの子育て支援事業を展開します。

○江坂ロビーフェスタ

音楽や舞踊といった文化芸術を市民に身近で楽しんでもらい、あわせて施設を利用することによって江坂図書館と「江坂花とみどりの情報センター」を知ってもらうことを目的に、文化団体「技芸精舎」に出演を依頼し開催しています。実施回数は平成 15 年以来 146 回を数えました。図書館と隣接施設の効果的なPRを行うとともに、市民協働事業の実施による地域の活性化に貢献します。

4-5) 千里山・佐井寺図書館(ちさと)

〔千里山・佐井寺地域の特性を生かした運営方針〕

千里山・佐井寺地区は、古くからの集落と新興住宅が混在した地域です。高齢化が進んでいる地域もありますが、全体からみると総じて年少人口の比率が高くなっています。近くには関西大学のキャンパスがあり、千里山駅前開発とマンション建設等で今後も人口の増加が見込まれます。子供、学生、子育て世代、勤労者、高齢者など、幅広い利用者のニーズを把握して、地域に密着したきめ細かいサービスを展開することを目指します。コミュニティセンターや公民館など地域の公共施設と連携して、地域住民への図書館PRに努めます。

〔千里山・佐井寺図書館のキャッチフレーズ〕

知的にまなぶ！あそぶ！つどう！

地域の方に愛された小学校校舎を再現した、居ごこちのいい図書館です。

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 障がいのある人へのサービスとして平成 29 年度から開始した図書の郵送貸出の利用は、順調に伸びています。デイサービスセンターなどからの口コミでも広がりを見せています。平成 31 年(2019 年)3 月末現在の登録者数は 25 人、平成 30 年度(2018 年度)の貸出冊数は 226 冊です。
- ・ 共同研究「公共図書館における知的障がい者のための合理的配慮のあり方に関する研究」として図書館体験ツアーを開催し、「よむ・きくへや」「やすむへや」^(※26)(試行)を設置しました。
- ・ 吹田図書館ともの会との共催行事は、成人向けには「ちさと暮らしに役立つ講座」として「知って安心、老後の備え」を開催、児童向けの「かがくあそび」では、「作って体験トリック工作」を開催しました。
- ・ 10 月には、木造校舎を再現した西館では、レトロな雰囲気を生かした、ハロウィン撮影会を開催しました。6 組の親子は、思い思いの仮装で飾り付けをした 2 階の復元教室や階段室で写真を撮っていました。小さい子供を連れては遠くに行けないので近くの図書館で楽しめるのは嬉しいと喜ばれました。

- ・「大人のための朗読会」「ヘルマンハーブ演奏会」は、今年度も多くの人に愉しんでいただきました。また、平成 31 年 2 月には、ハワイアンミュージックの会を開催して身近に音楽を楽しめる場として定着してきました。
- ・平成 30 年 4 月から隣接する千里第二幼稚園が認定こども園としてスタートし西館 1 階復元教室で子育て支援教室を開催することになりました。その教室に講師として絵本の読み聞かせやわらべうたの実演、親子で絵本を楽しむためのミニ講座を開いて、図書館をPRしました。
- ・折り紙やぬりえを展示パネルに飾る季節イベントでは、7 月七夕、10 月ハロウィン、12 月クリスマスに加え、3 月には「お花畑を作ろう」を開催し、多くの方に参加していただきました。小さな子供でも参加できるため大変好評でした。

【平成 31 年度事業計画と目標】

- ・地域の情報拠点として、仕事や暮らしに役立つ新鮮な情報の提供に努めます。また、地域住民の交流や創造的文化活動・学習活動を支援するため、多目的室等の有効利用を図り、地域に根ざした図書館サービスの展開を目指します。
- ・吹田市立図書館の障がい者サービスの拠点館として音訳・点訳講座等の実施により、ボランティアの育成に積極的に取り組み、音訳図書・点訳図書の製作点数の増加を図ります。知的障がい、身体障がいの方々へのサービスとして、マルチメディアデジターの利用体験やさわる絵本をPRし、郵送貸出を充実していきます。

○貸出点数の目標

| | | |
|----------|---|-----------|
| 図書・雑誌の貸出 | … | 521,200 冊 |
| 視聴覚資料の貸出 | … | 50,000 点 |

【特徴的なサービス】

○行事

- ・成人向けには読書の楽しみが広がる通常の催しに加え、平成 30 年度に好評であった親子で参加できる催し「ヘルマンハーブ演奏会」「ハロウィン撮影会」を予定しています。
- ・児童向けでは、定例のおはなし会、おたのしみ会の他に平成 29 年度(2017 年)から開催している来館者が気軽に楽しめる季節イベントを行います。

○書庫開放

「ちょっと書庫まで」^(※15)では、約 18 万冊収容の図書の書庫に加えてビデオ・CDの書庫を案内し図書館のバックグラウンド見学ツアーを催し、図書館資料の利用促進を図ります。

○障がい者サービス

千里山・佐井寺図書館は、平成 16 年(2014 年)の開館と同時に中央図書館から障がい者サービス機能を移し、業務を行ってきました。視覚障がい者向けの音訳・点訳資料の製作・貸出の他に、知的障がい、身体障がいの方へのサービスの充実を図ります。

- ・ 録音図書、点字図書、マルチメディアデイジー図書、LLブックなどをより充実させ、必要な人に貸出すとともに、市民の様々な障がいへの理解を深めます。
- ・ ボランティアグループが作成した「さわる絵本」を収集し、LLブックなどとともに障がい児にも利用してもらえるようPR方法を工夫します。
- ・ 知的障がい者を対象とした図書館体験ツアーを引き続き開催します。また、放課後デイサービスの事業所から子供たちへのアプローチも行います。

○地域資料のデータベース化

新聞記事のデータベース作成は、図書館フレンズとの協同により順調です。今年度は、昭和の頃の写真を中心に吹田市の昔の写真のデータベースを本格的に取り組む予定です。

○地域の方々が主人公になれる取組み

- ・ 吹田図書館との会等地域の団体と共催して成人向けには「ちさと暮らしに役立つ講座」を子供向けには「かがくあそび」を開催します。
- ・ 多目的室等の利用団体の方に講師になっていただく講座や行事を企画し、地域の方々の情報発信や交流・作品発表の場を提供します。

4-6)千里丘図書館

〔千里丘地域の特性を生かした運営〕

千里丘地域は、古くからの住宅街に加えて、大規模マンションが建設され、子育て世代の居住者が多い地域です。新しい住民を含め、あらゆる年齢層の地域住民の皆様に安心して利用していただけるよう、「やさしい」をコンセプトに生活のあらゆる場面で役に立つ、地域に密着したサービスを展開します。

〔千里丘図書館のキャッチフレーズ〕

環境にやさしい、子育てにやさしい、

障がい者や高齢者にやさしい

「やさしい」をコンセプトに、生活に寄り添った図書館を目指します

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 学校との連携では、昨年度に続き、読書活動支援者交流会を行い、図書館と読書活動支援者、また読書活動支援者同士の情報交換を行いました。小学校 2 校、幼稚園 1 園が図書館見学を訪れ、子供たちにパネルシアターやブックトークなどを行い、読書の楽しさを伝え、図書館利用の呼びかけを行うことができました。今後、さらに多くの学校や幼稚園、保育園に図書館見学や訪問を実施できるような働きかけを行います。
- ・ 「えほんのじかん」の開催頻度を月 2 回から毎週 1 回に変更しました。参加人数が伸び悩んでいることから、次年度に向けて開催時刻の検討を行います。

- ・ 市民作品展示の出品者が講師の「新聞ちぎり絵講座」を、成人向けに 3 回、子供向けに1回開催しました。
- ・ 市民作品展示では、写真、水彩画、グラフィックデザイン、切り絵、新聞ちぎり絵といった多様な作品が出品されました。また、作品展示の出品者に協力していただき、子供向けに「どうぶつクイズ」を実施しました。展示のみならず、新たな行事の開催に結びついています。

〔平成 31 年度事業計画と目標〕

あらゆる年齢層の地域の皆様に利用していただけるような地域に密着したサービスを展開します。大活字本をはじめ、マンガ・視聴覚資料・雑誌・洋書等幅広い資料の提供を行います。

- ・ 読み聞かせ等の定例行事の他に、新聞ちぎり絵講座、朗読会、遊文字講座等、子供から大人まで楽しめる行事を実施し、図書館をさらに身近に感じてもらえるように努めます。
- ・ 近隣の小学校の司書教諭や読書活動支援者との懇談を今年度も行い、さらなる連携を図ります。図書館見学や学校(園)訪問については、積極的に学校・園への働きかけを行い、より多くの子供たちに読み聞かせや本の紹介を通して読書の楽しさを伝えるとともに図書館の使い方を PR できるよう努めます。
- ・ 図書館フレンズの「館内(壁面)装飾」「緑化」「図書館主催行事の補助」などのボランティア活動、市民作品展示の出品者が講師となった講座や恒例となった「新春朗読会」の開催等、地域の力を借りながら人々が気軽に立ち寄れ、地域の交流の場となるような図書館を目指します。

○貸出冊数の目標

図書・雑誌の貸出 … 531,200 冊
AV資料の貸出 … 40,000 点

〔特徴的なサービス〕

○行事

毎年開催している朗読工房による「新春朗読会」など、地域住民の興味に即したテーマの行事を行います。また、市民作品展示を介してつながりのできた市民と協働し、生活に役立つ講座を開催します。

○書庫開放

書庫に入って CD を直接選ぶイベント「ちょっと CD 書庫まで」を、継続して行います。

○市民作品展示

市民の作品を 2 か月ごとに募集して館内に展示し、来館者に楽しんでいただいています。

○多目的室の活用

多目的室を、絵本の読み聞かせや子供向け各種行事に使用するほか、成人向けの講座開催などを通じて、地域の人々の交流拠点として利用されるよう、積極的な活用を図ります。

4-7)山田駅前図書館

〔山田地域の特色を生かした運営〕

山田駅前図書館は、阪急千里線と大阪モノレールの両山田駅や、商業施設に隣接しています。通勤通学者、家族連れの利用が多く、山田地区だけでなく、千里ニュータウンの古江台や津雲台地区も奉仕地域に含まれ、多くの市民の利用があります。また「子育て青少年拠点夢つながり未来館(愛称:ゆいぴあ)」内にあり、のびのび子育てプラザ、青少年活動サポートプラザとの連携を活かした運営を行っています。

既設館の山田分室周辺も人口が多く、高齢者から若年層まで幅広い世代の利用があります。また近くには国立民族学博物館や大阪日本民芸館を擁する万博公園があり、緑とともに文化的な環境にも大変恵まれています。

山田駅前図書館は、様々な情報をつなげていくことで地域の情報拠点を目指します。山田分室は、地域に密着した分室として高齢者と児童に重点を置いたサービスの充実を目指します。

〔山田駅前図書館のキャッチフレーズ〕

「つながり」を活かす図書館

- 青少年支援・子育て支援とのつながり 連携に重点を置いた図書館サービスの展開
- 地域とのつながり 地域の拠点として図書館サービスの充実
- 図書館ネットワークとのつながり いつでも、どこでも、だれにでも資料の提供を

〔平成 30 年度の成果と課題〕

- ・ 児童サービスでは、中学校 6 校(山田駅前図書館)・2 校(山田分室)の職業体験を受け入れました。近隣の小・中学校の読書活動支援者交流会、中学校の図書室訪問 1 校(山田駅前図書館)・分室(3 校)も実施しました。
- ・ YAサポーターは、今年も活動期間を夏休みとし、資料の装備や行事補助などの活動を実施しました。今年は全員が集まる機会を設け、交流を深めることができました。またYA向けの本の紹介冊子「てくてく」の編集会議に、中学・高校生に参加してもらいました。年齢を超えていっしょに活動する場をもつことができました。
- ・ 市内の高校の入学案内パンフレットのコーナーを設け、進学情報の提供を行っています。

- ・ 一般向け事業としては、図書館講座じゅずつなぎ「旧山田村を訪ね歩く」と題し、吹田歴史文化まちづくり協会の吹田まち案内人のガイドにより、近辺のまちあるきを行いました。
- ・ 「駅前deシネマ」として、図書館の所蔵するDVD「父と暮らせば」の上映会を行いました。
- ・ ゆいぴあ施設との連携では、青少年活動サポートプラザ、のびのび子育てプラザとの3施設連携事業「ゆいぴあの日」として、7月に夏祭り、9月にリサイクルフェア、11月に国際交流イベント、1月にお正月遊び、3月に防災イベントを行い、本の展示やリサイクル図書の提供などを行い、たくさんの参加がありました。
- ・ のびのび子育てプラザとは、読み聞かせと出張絵本コーナー「えほんのひろば」、ブックスタート事業のPR、ひとりのびのび読書タイム(乳幼児の保護者対象に読書時間を保障する行事)^(※21)など、引き続き連携を深めました。
- ・ ブックスタートやWi-FiをPRする図書館のポスターを、駅の利用者からも見えるよう直結階段に掲示し利用の問合せが増えました。
- ・ 山田分室では、地震や台風などによる施設の修繕を行いました。今後も定期的な見回りを強化して、市民の安全を図ります。

〔平成31年度事業計画と目標〕

- ・ ゆいぴあ内他施設へ、図書館の行事・関連図書コーナー・各種リストの配布などのPRを行い利用の促進を図ります。
- ・ 地域資料への要望が多いので地域・行政資料の特設コーナーを設け、一層の活用を図ります。
- ・ 進学情報コーナーを充実させます。
- ・ 児童・障がい者サービス・図書館フレンズなどのボランティア活動をサポートし、またその活動をPRし、参加者増につなげます。
- ・ 図書館が行っているさまざまな障がい者サービスをもっとPRしていきます。
- ・ 図書館フロア委員会^(※20)からの提案を受け、ゆいぴあの「ぶらっとる一む吹田」(青少年の自立を支援する施設)の紹介コーナーを設け、PRしていきます。

○貸出冊数の目標

図書・雑誌の貸出 … 756,000 冊

視聴覚資料の貸出 … 60,000 点

〔特徴的なサービス〕

○YA(ヤングアダルト)サービス

第8期YAサポーターを募集し、中高校生世代に図書館の仕事への理解を深めてもらい、図書館利用の促進を図ります。またサポーターが交流する機会を設けます。YAコーナーを充実していきます。

○青少年活動サポートプラザとの連携

青少年活動サポートプラザが行う講演会と連携し、特設コーナーを作り関連資料を展示するとともに、行事のPRに努めます。また、そこに集う青少年への働きかけを検討していきます。「ぷらっとるーむ吹田」の利用者の就労支援ボランティアを受け入れます。

○のびのび子育てプラザとの連携

子育て情報の相互活用を図るとともに、子育てプラザで実施される講座への講師派遣や定期的な読みきかせなど、行事への積極的な参加を検討します。共催で実施している「ひとりのびのび読書タイム」の充実を図ります。

○ゆいぴあ施設との連携

青少年活動サポートプラザ・のびのび子育てプラザとの3施設連携行事を開催します。また両施設の行事開催時には、ブックリストの配布や図書の展示、パネル展示などの協力を行います。

○市内小中学校の教科書コーナー

市内の小中学校で使用している教科書、及び採択候補の教科書を提供し市民の高い関心にこたえます。

〔山田分室の取り組み〕

地域の人達に親しまれている山田分室は、身近で立ち寄りやすい地域密着型の図書室的な役割を果たしています。レファレンス業務や読書相談については、簡単なものは分室で行い、より多くの資料を必要とするものについては、山田駅前図書館が援助して実施します。

- ・ 高齢者と乳幼児に配慮した蔵書構成を目指します。
- ・ 近隣の小中学校の調べ学習や学習援助のための資料を揃えます。
- ・ 西山田地区公民館との共催事業である「ほんのひろば」(※24)などの行事にひきつづき参加し、公民館行事と連携した特設コーナーの設置など地域に密着した分室運営を目指します。
- ・ 乳幼児サービスを充実させるため、「抱っこで絵本講座」を開催します。2・3歳児対象の定例行事「おひぎで絵本」のPRに努め参加者の増加を図ります。
- ・ 図書館見学などには、山田駅前図書館と協力して対応します。近隣には小学校も多いので、読書活動支援者のサポートに努めます。

図書館語句解説

※1 江坂ロビーフェスタ

地域有志からなる「技芸精舎」のプロデュースにより、江坂花とみどりの情報センターと共催で、8月と2月を除く毎月第3土曜日に開催してきた、音楽やお話し(語り)などによる催し物。平成26年度(2014年度)に100回目を迎えた。

※2 LLブック

知的障がい、学習障がいなどの通常の活字図書の利用が困難な人にも理解できるように、図や写真を多く使うなど工夫をされた本。

※3 LL版 図書館利用案内

大きな活字、わかりやすい表現を使った図書館の利用案内。ホームページ上でも公開している。

※4 親子で絵本とわらべうた

中央図書館の主催事業。絵本の読み聞かせ、手遊び、わらべ歌を親子で楽しむ会。9か月～2歳未満向を対象とした会と、2～4歳未満を対象とした会を開いている。

※5 親子わくわく読書ひろば

就学前の乳幼児と保護者に千里図書館多目的室に集ってもらい、お互いが周囲を気にせずに絵本や紙芝居等を楽しむ時間(2時間)を過ごしてもらうもの。

※6 国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館や調査機関等と協同で構築する調べ物のための検索サイト。参加館の質問・回答の事例、調べ方など、調査に役立つ情報を公開している。吹田市立図書館も平成17年(2005年)から参加している。一般公開登録とはレファレンス事例の登録の際に、図書館関係者以外も閲覧可能なレベルを選ぶこと。事例がインターネットで公開される。

※7 子どもと本のまつり

平成 31 年度(2019 年度)で第 36 回を迎える子どもと本のまつりは、子供に本を読む楽しさや喜びを知ってもらうために、文庫の方々や子供の本の研究を続ける市民で構成される「吹田子どもの本連絡会」との共催で毎年 4 月 23 日(子ども読書の日)から約 1 か月間、講演会や工作教室、似顔絵大会、おはなし会などの子供向け行事を全館で行っている。

※8 ごりまる学校訪問

「子ども読書活動推進計画(平成 19 年)2007 年」に基づき開始した学校連携事業のひとつ。平成 25 年度(2013 年度)から学期ごとの申し込みにより、毎月第 1 水曜日の午前中に自動車文庫「ゆめぶんこ」が小・中学校を訪問し、車両見学や、司書による読み聞かせなどを行う。平成 26 年度(2014 年度)から第 3 金曜日にも実施している。

※9 ごりまる便

平成 25 年度(2013 年度)から毎月第 1 水曜日に自動車文庫(ゆめぶんこ)を利用して小・中学校に団体貸出の図書を配達、回収をする事業。平成 26 年度(2014 年度)から第 3 金曜日にも実施している。

※10 サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)図書館

全国の点字図書館や公共図書館が作成した本の点字データや音声データを集積し、視覚障がい者などの方々がパソコンや携帯電話でダウンロードすることにより利用できるようになっている。また全国の図書館も登録することによって、所蔵する 62 万タイトル以上の資料のデータを利用することができる。

※11 吹田市子ども読書活動支援センター

「吹田市立図書館基本構想」(平成 25 年(2014 年)3 月策定)の第 2 章図書館サービス計画の中で学校、幼稚園、保育園、児童会館、児童センターとの連携を進めるための、図書館の総合的な支援体制機能。一部実施中の事業もあるが、今後の重要課題となっている。

※12 SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)

図書館では公式「Facebook(フェイスブック)」と公式「Twitter(ツイッター)」を利用している。インターネット上で仲間を募り、そのネットワークに向けて情報発信等を行うことができる。それぞれの特性に合わせ行事の報告や本の紹介などを行っている。

※13 抱っこで絵本講座

1歳児とその保護者を対象とした絵本の読み聞かせについて学ぶ3回連続の講座。読み聞かせの意義や年齢に合った絵本の選び方、読み聞かせの仕方を学んでもらう。実際に親子で絵本を読んでいただき、読むスピードやページをめくるタイミングなどを具体的に学ぶ。

※14 地域・家庭文庫

市民が絵本や児童書を集め、自宅や団地の集会所などを地域の子供達に開放して、絵本や児童書の貸出や子供向けの催し等をする活動のこと。昭和60年代にピークを迎え一時期、16か所活動していたが、地域図書館の増設とともに減っており、現在、吹田市には4つの文庫がある。

※15 ちょっと書庫まで

資料を保管している書庫を、利用者に開放する催し。(希望する資料は貸出可)中央図書館のほか千里山・佐井寺図書館および千里丘図書館で実施している。

※16 デイジー図書

国際規格であるDAISYフォーマットによりデジタル録音された音声図書。パソコンで音声データを録音し、編集作業を施して本と同じように見出しやページで呼び出したり、飛ばし読みができるため、活字本を読むような形で耳からの読書ができるようにした、録音テープに替わる次世代の音訳図書。利用には専用の機器が必要。

※17 どくしょちょきん(すいぼんつうちょう)

小学生を対象に読書振興のために配付している読んだ本の感想などを記録できる小冊子。1冊いっぱいになると「にんていしょう」に貼るシールをお渡しする。4冊たまと合冊する。冊子は図書館相談カウンターで手渡しもしくはホームページよりダウンロードできる。

※18 図書館講座じゅずつなぎ

平成 16 年度(2004 年)から毎年 10 月から 11 月にかけて一般向け講演会として全館で行っている。じゅずのように連続して次々に各館で実施することから名づけられた。当初は、吹田市にゆかりの講師や、文化についてのテーマを設定していたが、現在は各館で趣向をこらし、市内各施設と連携するなどバラエティに富む構成となっている。

※19 図書館フレンズ

平成 24 年(2012 年)から個人登録のボランティアとして図書館が募集し、活動しているグループの名前。当初、前年度の 3 月に募集していたが、平成 31 年度(2019 年度)より通年募集を開始した。年度末までの登録。図書館の装飾、行事の補助、データ入力等様々な活動の中から、都合の良い時間にできることを選び、活動をしていただく、市民協働事業の一種。

※20 図書館フロア委員会

山田駅前図書館の主催事業などについて協議し、図書館の利用者を代表して、吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会へ意見・要望を提言する委員会。

※21 ひとりのびのび読書タイム

子育て青少年拠点夢つながり未来館内の山田駅前図書館とのびのび子育てプラザとの連携事業。プラザで保育してもらっている間に、保護者が山田駅前図書館でゆつくり本を読んだり借りる本を選んだり、ゆったりとした時間(約 100 分間)を過ごしてもらおうというもの。子育て中の保護者への支援と読書活動の推進を目的としている。

※22 ビブリオバトル

おすすめ本を紹介しあい、その中から一番読んでみたいと思った本を観客が投票する知的書評合戦。図書館では平成 24 年度に山田駅前図書館で初めて実施し、その後、山田駅前図書館、中央図書館で実施した。

※23 ブックスタートのひろば

ブックスタートの発祥は英国バーミンガム市。国の法律・計画の制定時にも明記されることとなった。絵本を通じて親子の絆を深め、心豊かな成長を支援することを目的とする。ボランティアが

ループ「りんごの木」の協力のもと、0歳・1歳の赤ちゃんとその保護者を対象に、絵本の読み聞かせや手遊び・わらべうたの実演を行っている。

※24 ほんのひろば

西山田地区公民館と山田分室との連携事業。司書が公民館でブックトークと読み聞かせなどを定期的に行っている。

※25「もうよんだかな？」セット

毎年出版される子供向け図書の中から司書が選んで紹介している冊子「もうよんだかな？」と、「てくてく」に掲載された図書を学年別に40冊のセットにして、各学年に1学期間の貸出を行っている。

※26「よむ・きくへや」と「やすむへや」

「よむ・きくへや」は声や音を出して読書を楽しむための部屋。「やすむへや」は刺激を避けて静かに過ごせる部屋。いずれも障がいのある人とその同行者が利用できる。

※27 YAサービス

YAとはヤングアダルトの略で、吹田市立図書館では12歳～18歳を対象としたサービスをいう。YAコーナーなど、中・高生の興味・関心にこたえる読みやすい本や役立つ本を別置しておくなど、一緒にイベントや本の紹介などを行うYAサポーターなどの取り組みがある。

※28 有料データベース

辞典や新聞などの情報について使用料を支払うことで、パソコンなどの端末で閲覧できるようにしたもの。利用者は無料で閲覧できる。現在、江坂図書館、千里山・佐井寺図書館では、日経テレコン21が閲覧できる。全館でヨミダス歴史館、毎索、朝日新聞聞蔵Ⅱビジュアル、ジャパンナレッジ、マガジンプラス、ブックプラス、産経新聞データベース、D1-Law(法律データベース)が閲覧できる。

※29 レファレンス

いろいろな問合せや相談を、図書館資料を使って援助する業務。